

国家戦略特区ワーキンググループ 沖縄県提出資料

令和元年12月12日

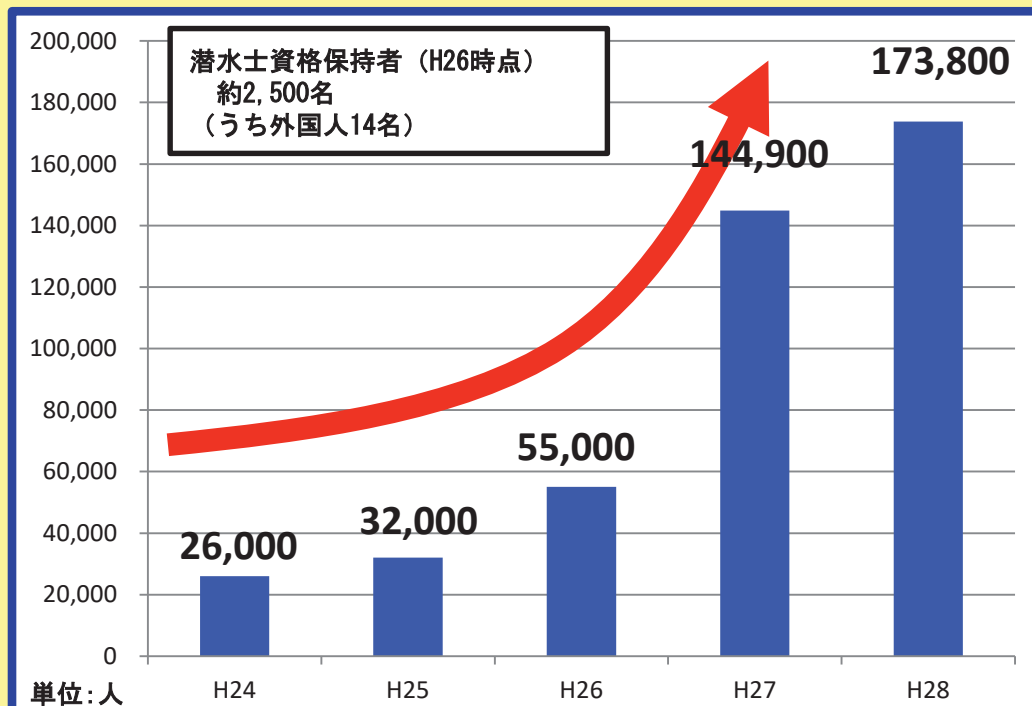


沖 縄 県

レジャーダイバーガイドの現状と課題について

現状

- 沖縄を訪れる外国人観光客でダイビングを実施した人数は年々増加するなど好調に推移している。(下記グラフ)



- 今後更にインバウンドのダイビング客を促進するためには、言葉の障壁をなくし、「安心・安全」にダイビングを行える体制を整える必要がある。

課題

- 外国人ダイビング客の増に伴い言語の問題から十分かつ安全な対応ができない
- インストラクターを業とする場合、日本の潜水土資格（日本語での試験）が必須となっており、外国人の取得が困難
- 一方、潜水土試験では、レジャーダイビングで不要な項目等がある
(参考：不要な項目)
 - ・作業潜水（水中及び潜函での土木作業など）での複雑な手順やスキル（ヘルメット式呼吸器材を使用や送気潜水など）
- インストラクターに必要なスキルは民間資格でもカバー可能



レジャーダイバーガイドに係る要件緩和が必要